

## 柏の葉スマートシティ

千葉県柏市で7月、日本初の本格的なスマートコムニティ（次世代社会インフラ）が開業した。再生可能エネルギー、蓄電池、ICT（情報通信技術）の組み合わせで地域全体の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出量を60%減らせる見通し。これまで産業界は製品単品の省エネルギー化を追求してきた。街や地域、インフラのよくな広範囲の省エネルギー化を考えると、技術の組み合わせによるイノベーションが生まれ、環境負荷を大きく低減できる。環境技術の組み合わせはスマートコムニティの普及にもつながる。

## エネ管理、電力融通で過不足補う

7月、三井不動産が柏市で進めている大型都市開発事業「柏の葉スマートシティ（SCC）」の中核となる街区「ゲートスクエア」が開業した。オフィスやホテルが立ち並ぶこの街を中心最先端のエネルギー管理が始まった。



ゲートスクエアは隣接する商業施設「ららぽーと柏の葉」との間で電力をやりとりする「電力融通」をしている。平日、オフィスの電力需要が増えたゲートスクエアに向けて、ららぽーと柏の葉から電力を供給する。休日は電力が余るゲートスクエアから、ららぽーと柏の葉へ電力を送る。